



## 2020-2021 主題

国際会長(IP) : Jacob Kristensen (デンマーク)

主 題 “VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP”

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

スローガン “TRUST IN THE OF LIFE” 「命の川を信じよう」

アジア太平洋地域会長(AP) : David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

東日本区理事(RD) : 板倉 哲也 “Let's enjoy Changes.”

「変化をたのしもう！」

湘 南・沖縄部長(DG) : 古田 和彦 「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に使えよう」

つるみクラブ会長 : 久保 勝昭 “良きつながりを持って”心ひとつに

「無理のない奉仕活動を」



## キ ッ ク オ フ

横浜つるみワイズメンズクラブ会長 久保 勝昭

つるみクラブは2020年7月10日(金)鶴見中央地域ケアプラザ・多目的ホールで第1回例会を開きました。前回のブリテンには3ヶ月振りに期の最終例会もコロナ感染対策を実施したうえで開く事が出来、感激したと書きました。ワイズメンズクラブも他のボランティアの会も基本は、民主的なコミュニケーションのもとに会の運営をしていくことに意義がある様に思う。それが今期の最後に来て、動くことの出来ない、抜け殻のような、長く続いた空白の日々のもどかしさ、怒りの矛先を何処にぶつけたらと同時にクラブ存続の危機さえ感じた。

7月はキックオフです。前期を少し振り返ってみる。出席率も一度だけ67%と低い時があったものの他は90%以上と比較的良好実績を残す事が出来たと思っています、また退会者が一人もいませんでした。7月、生麦の「うたごえ広場」にはじまり、9月、11月はフリーマーケットを出店、ファンドレイジングに努めました。また北YMCA、生麦、鶴見中央地域ケアプラザ、横浜YMCAチャリティーランにボランティアとして参加、前半の活動目標をほぼ達成することが出来ました。それだけに、後半コロナ問題で活動が全てストップしてしまい先が見えない事態に憤りを感じ得ませんでした。

湘南・沖縄部第三回エクステンション委員会で2019年7月現在103名のメンバーを22年までに139名にするという方針がだされた。つるみクラブも6名の増強を考えている。

私もワイズ歴37年になりますが、会員増強の問題は常について回っていました。ひところはキリスト教の色が濃い時代もありましたが、だいぶ前から宗教色は薄くなり、誰でも入会できるように成ったことは増強において、大分やり易くなった筈である。私は1983年に横浜ノースクラブ(2010年解散)に入会しました。その頃のメンバーの年齢は皆30~40代でした。解散した時は私も65歳になっていました。解散理由は皆が高齢に成ってきた事、また新入会員も高齢で病気になったり、亡くなったりして、最終的にメンバー数も7人ぐらいになってしまったのです。その時代を振り返りまた反省もふまえ、つるみクラブもメンバーの健康、精神面を考えたプログラム作りが必要になると思います。増強も出来るだけ若い層を仲間にする事を常に頭に置いておくことが必要である。今年はコロナで大変難しい活動を強いられると思うがこれを乗り越えた先に明るい未来が来ることを祈るばかりである。

7月定例会プログラム

- 日 時：2020年7月10日（金）  
16：00～18：00
- 場 所：横浜市鶴見中央地域ケアプラザ  
多目的ホール
- 出席者：久保勝昭、久米康子、中村純子、  
島田徹、駒井恵美子、新改悦子  
松井美津子、吉本正子、渡邊光枝
- 開会点鐘及び挨拶・・・・・・・・久保会長  
ワイズソング・ワイズの信条・・・・・・・・全 員
- 2020-2021年度 第1回クラブ総会
- 1) 議長選出と定足数確  
※会員全員の出席により本総会は成立  
議 長：久保会長
  - 2) 議案審議
    1. 2019-2020 年度事業報告☞承認
    2. 2019-2020 年度会計報告☞承認
    3. 会計監査：新改監事より会計業務が適正に  
実施された事の報告あり
    4. 2020-2021 年度活動方針☞承認
    5. 2020-2021 年度年間行事予定☞承認
    6. 2020-2021 年度予算☞承認
  - 3) 「報告事項」
    1. 8月6日（木）移動例会について
    2. 「生麦歌声ひろば」の件
    3. 北Yまつり、生麦まつり、潮田まつり、  
寛政コミハマまつりの件
    4. その他
  - 4) 閉会点鐘・・・・・・・・久保会長

2020年7月例会データ

7月在籍者数		7月出席者数		出席率
メンバー	9名	メンバー	9名	100%
		ビジター	0	
		ゲスト	0	
計	9名	合 計	9名	100%

<役 員 会>

7/20(月) 14：00～17：00  
出席者；久保会長、久米、中村

議 題

- 移動例会打ち合わせ
- ブリテン内容の検討
- その他

今後の予定  
7月25日（土）第1回評議会  
8月 6日（木）移動例会  
8月14日（金）定例会



※例会終了後、床、テーブル、椅子等、会場の消毒を行った。

2020～2021 年度運営方針「無理のない奉仕活動を」

- 2019～2020年とほぼ同様のプログラムを作成した。横浜YMCA及びワイズメンズクラブ（主に湘南・沖縄部）の行事に出来るだけ参加する。
- 湘南・沖縄部第3回エクステンション委員会の決定事項 2019年7月現在 103名のメンバーを2022まで139名にするという方針に沿って、つるみクラブも6名の会員増強をめざす。
- 鶴見区社会福祉協議会ボランティア・市民活動分科会のメンバーとして福祉活動に参加する。
- 昨年同様9月と11月にフリーマーケットを出店、ファンドレイジングに努める。

～ 鶴見区活動報告 ～

ケアプラザでは10年以上も続いている「みつば亭」という配食弁当の活動があります。地域の食生活推進委委員、通称「ヘルスマイト」の方、民生委員の方が中心となったボランティア活動であり、毎週木曜日に、温かい季節感あるお弁当を300円で配達しています。バランスのよい食事だけでなく、配達やケアプラザに取りに来るかたの安否確認も行っています。3月から新型コロナウイルス感染症の関係で中止していましたが、調理室などの部屋貸しの規制が緩和され、7/9に嚴重な感染症対策の元、再開することが出来ました。お弁当を取り来た方からは、「4か月ぶりにケアプラザに来ました」の声もあり、活動が自粛されている中、配食弁当の再開を喜んでおり、改めて必要な支援であると感じました。



横浜中央 YMCA  
鶴見中央地域ケアプラザ所長 島田 徹

新型コロナウイルス対策

身のまわりを清潔にしましょう。



石けんやハンドソープを使った丁寧な手洗いを行ってください。

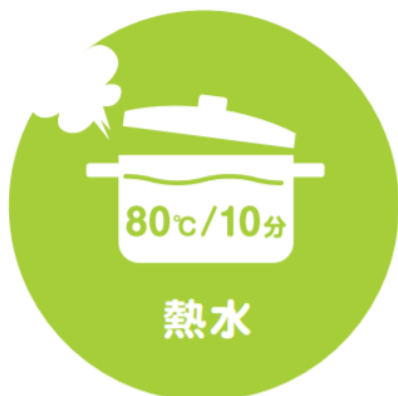


手洗いを丁寧に行うことで、十分にウイルスを除去できます。さらにアルコール消毒液を使用する必要はありません。

手洗い		残存ウイルス
手洗いなし		約100万個
石けんやハンドソープで10秒もみ洗い後流水で15秒すすぐ	1回	約0.01% (数百個)
	2回繰り返す	約0.0001% (数個)

(森功次他：感染症学雑誌、80:496-500,2006 から作成)

食器・手すり・ドアノブなど身近な物の消毒には、アルコールよりも、熱水や塩素系漂白剤、及び一部の洗剤が有効です。



食器や箸などは、80℃の熱水に10分間さらすと消毒ができます。火傷に注意してください。



濃度0.05%に薄めた上で、拭くと消毒ができます。ハイター、ブリーチなど。裏面に作り方を表示しています。



有効な界面活性剤が含まれる「家庭用洗剤」を使って消毒ができます。NITEウェブサイトにて製品リストを公開しています。

## ☆ ツルのひとこと ☆

「コロナ禍」で、どの様な自粛生活を書くようにとの、会長からのお達し。

「ペスト禍」で、ニュートンは学校が休みになり、田舎に帰って疎開生活を送っていた1年半の間に、“万有引力”発見等々の、偉業を成し遂げたそうです。

知的能力も、身体能力も無い老女の私は、命懸けで世の人々の為に戦っておられる医療関係者の方々に、心より敬意を表しながら、少しでも負担が軽減されればと、ひたすら家の籠り、三密を守ることに努め、身辺整理の日々を過ごしておりました。

コロナ終息を祈りつつ、この生活は終生続くことと、覚悟はしております。(吉本 正子)

### 新しい生活様式

街中はマスクやフェイスシールド着用の人々。毎日ニュースで流れるコロナで命を落とされる夥しい人数。世界中が未曾有の出来事となりました。

コロナで生活が一変してしまって人々、企業、そして国のもたもたした体制の悪さもみえました。このコロナウイルスのために世界中の人々が怒り、苦しみ、悲しみ、我慢を強いられる世の中になってしまいました。

その様な中で外出時はマスク着用と密閉・密集・密接の三密に気を付け、ソーシャルディスタンスを保つという新しいライフスタイルにはなりましたが、これ迄と変わらぬ毎日で過ごせる日々感謝です。

今は一日でも早く治療薬 ワクチンの開発が待たれます。(松井 美津子)

### 「ピーマンアレルギーの私」

私がピーマンアレルギーとわかったのは、高校の時でした。山形の田舎で県立高校を受験し、合格発表があり、3日後に自宅に陸上部の先輩達4~5人が来てくれて「ぜひ陸上部に入ってください。入学前に学校で合宿をやるので、ぜひ参加してください」という事でした。まだ何も考えていなかったもので、5日間学校で合宿に参加する事にしました。日中は走る練習をやって、夜はみんなでおしゃべりしたりして楽しく合宿を始めました。2・3日後の夜、夕食を食べた後お腹が痛くなってきて、がまんが出来ないくらいでした。先生に話したら、近くの町医者に行こうと、リヤカーに乗せられ行きました。何を食べたかを聞かれ、初めてピーマン料理を食べた事を話したら、その時「ピーマン・パプリカ、アレルギーですね」と診断されました。それ以来ピーマンそれにパプリカも食べないようにしております。学校を卒業し、大手会社に入社した時、事務所の皆さんに「ピーマン・パプリカ」アレルギーの話をしました。信じてもらえませんでした。ある日、食堂で昼食を食べ仕事を始めたらお腹が痛くなり始めました。すぐ薬を飲みましたが痛みは治まりません。上司に話して休憩室でしばらく横になっていました。事務所に戻ったら、皆が、今日の昼食の野菜炒めにピーマンが入っていたと言っていました。でも、私の食べた野菜炒めにはピーマンの姿はなく、ちょっとニンニクの味がしていたので、ピーマンの味も全然感じられませんでした。それで食べてしまったようです。それ以来、ピーマン料理のある昼食は、皆が教えてくれるようになり、食堂のおばさん達も、「今日の〇〇は食べないでね」と言ってくれるようになりました。でも、事務所の方全員で行った中華街での忘年会では、全ての料理にピーマンやパプリカが入っており、一品も食べられませんでした。中華まんじゅうを一個だけ食べて終わりでした。これだけが未だに残念でなりません。(駒井 恵美子)